

ツシュを利用して下る。その先にも2mの小滝があり、ここには木馬道の残骸が残っていた。小さな沢で、等高線の傾きから考えても平凡な沢におわるだろうと考えていたので、実はちょっぴりと喜ぶ。しかしあとはずっと平凡。しかも右岸が伐採地となったあたりから、沢は伐採された木の枝で埋まり、とても歩けなくなる。しかたなく、左岸の踏跡に上がって下降終了とする。そのあと5分で林道稲沢北山本線に出た。

(記・)

[タイム] 一ノ沢下降開始(6:05)→一ノ沢下降終了(6:30)

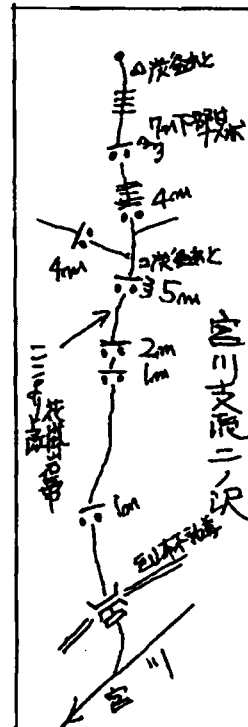
宮川支流二ノ沢(仮称)

1989年8月12日

二ノ沢(仮称)の出合はとても貧弱で、遡行意欲をそがれたがとにかく出発。案の定平凡な登りが続く。20分ばかり遡って、もう少し行ってから引き返そうかと考えていたら、岩質が花崗岩に変わり、とたんに滝が出てきた。5mのナメ滝。左岸が岩場となっていて、そこにイワタバコが可憐な花を咲かせている。案に登れるが、その先にも2つ滝が出てきた。両方共多くはないが適当にスタンスがあり、直登する。平凡な登りの果てにちょっとしたハイライトのある沢であった。

7:20源頭に達する。稜線直下、落葉の下からしみ出る感じで流れ出る水が水源であった。(記)

[タイム] 二ノ沢出合(7:50)→遡行終了(7:25)



宮川支流三ノ沢(仮称)

1989年8月12日

7:55, 三ノ沢(仮称)の遡行開始。この沢は全く平凡であった。行けども行けど